

火星大気北半球冬季におけるCO₂過飽和の経度依存性

Longitudinal dependence of CO₂ supersaturation during northern winter in the Martian atmosphere

*野口 克行¹、森井 靖子¹、小田 尚香¹、黒田 剛史²

*Katsuyuki Noguchi¹, Yasuko Morii¹, Naoka Oda¹, Takeshi Kuroda²

1.奈良女子大学、2.東北大学

1.Nara Women's University, 2.Tohoku University

米国の火星探査機であるマーズ・グローバル・サーベイヤー（MGS）で行われた電波掩蔽観測では、長期間（1998-2007）にわたる気温の高度分布データが得られている。このデータを解析した結果、北半球冬季の高緯度（北緯60-80度）において、大気主成分であるCO₂の過飽和の発生に強い経度依存性が見られることがわかった。CO₂過飽和が頻発するのは、約400-30 Paの高度領域においては東経90-180度と270-360度の地域であった。気温の東西偏差と比較すると、およそ低温部に一致することがわかった。

キーワード：火星、過飽和、二酸化炭素

Keywords: Mars, supersaturation, CO₂